

# CASBEE® - 建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)Landport新座新築工事	階数	地上4F
建設地	埼玉県新座市	構造	RC造
用途地域	指定なし	平均居住人員	174 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,160 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年3月 予定	評価の実施日	2020年10月13日
敷地面積	13,789 m <sup>2</sup>	作成者	西武建設株式会社 一級建築士事務所 澤田明彦
建築面積	8,200 m <sup>2</sup>	確認日	2020年10月13日
延床面積	28,989 m <sup>2</sup>	確認者	西武建設株式会社 一級建築士事務所 降矢俊治



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.1** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

46 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 3.0

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.8

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.2

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 0.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

### 3 設計上の配慮事項

総合	その他	
埼玉県新座市に建設される物流倉庫である。 建物の耐用性への配慮、節水型器具の採用等により、環境負荷低減に配慮した建物である。	・特になし。	
<b>Q1 室内環境</b> ・自然換気有効開口面積は居室床面積の1/15以上確保し、給気口と排気口の離隔による取り入れ外気の配慮など、室内の空気質環境に配慮した計画としている。	<b>Q2 サービス性能</b> ・耐用年数の長い内装材、配管材を採用し、建物の耐用性の向上に配慮している。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> ・特になし。
<b>LR1 エネルギー</b> ・特になし。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・解体時におけるリサイクルを促進する対策を行っている。	<b>LR3 敷地外環境</b> ・燃焼機器の設置を避け、大気汚染防止に配慮している。 ・敷地内に駐輪場・駐車場を確保する等、地域インフラへの負荷抑制を図っている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
**(仮称)Landport新築新築工事**

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>3.0</b>
<b>Q1 室内環境</b>					0.30		-		<b>3.1</b>
<b>1 音環境</b>				<b>3.2</b>	0.15		-		<b>3.2</b>
1.1 室内騒音レベル				<b>3.0</b>	0.40		-		
1.2 遮音				<b>3.0</b>	0.40		-		
1 開口部遮音性能				3.0	0.60		-		
2 界壁遮音性能				3.0	0.40		-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-		-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-		-		
1.3 吸音	床、天井の2面に吸音材を採用			<b>4.0</b>	0.20		-		
<b>2 温熱環境</b>				<b>2.4</b>	0.35		-		<b>2.4</b>
2.1 室温制御				<b>3.0</b>	0.50		-		
1 室温				3.0	0.50		-		
2 外皮性能				-	-		-		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.50		-		
2.2 湿度制御				<b>3.0</b>	0.20		-		
2.3 空調方式				1.0	0.30		-		
<b>3 光・視環境</b>				<b>3.3</b>	0.25		-		<b>3.3</b>
3.1 昼光利用				<b>4.2</b>	0.30		-		
1 昼光率	昼光率: 2.5%以上			<b>5.0</b>	0.60		-		
2 方位別開口					-		-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40		-		
3.2 グレア対策				<b>3.0</b>	0.30		-		
1 昼光制御				3.0	1.00		-		
3.3 照度				<b>3.0</b>	0.15		-		
3.4 照明制御	1スパン以下の単位で照明制御ができ、スイッチで操作可能			<b>3.0</b>	0.25		-		
<b>4 空気質環境</b>				<b>4.0</b>	0.25		-		<b>4.0</b>
4.1 発生源対策				<b>4.0</b>	0.50		-		
1 化学汚染物質	天井裏含むほぼすべての建材にF☆☆☆☆を採用			<b>4.0</b>	1.00		-		
4.2 換気				<b>4.6</b>	0.30		-		
1 換気量	基準値の1.4倍以上の換気量を確保			5.0	0.33		-		
2 自然換気性能	自然換気有効開口面積: 居室床面積の1/15以上			5.0	0.33		-		
3 取り入れ外気への配慮	給気口、排気口は同方位で6m以上の離隔距離を確保			4.0	0.33		-		
4.3 運用管理				<b>3.0</b>	0.20		-		
1 CO <sub>2</sub> の監視				-	-		-		
2 喫煙の制御				3.0	1.00		-		
<b>Q2 サービス性能</b>				-	0.30		-		<b>3.0</b>
<b>1 機能性</b>				<b>2.5</b>	0.40		-		<b>2.5</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>1.0</b>	0.40		-		
1 広さ・収納性				1.0	0.33		-		
2 高度情報通信設備対応				1.0	0.33		-		
3 バリアフリー計画				1.0	0.33		-		
1.2 心理性・快適性				<b>3.6</b>	0.30		-		
1 広さ感・景観	天井高: 2.9m以上			5.0	0.33		-		
2 リフレッシュスペース	執務スペースの1%以上のリフレッシュスペース、自販機の設置			5.0	0.33		-		
3 内装計画				1.0	0.33		-		
1.3 維持管理				<b>3.5</b>	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計	防汚性の高い材料の採用等			4.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50		-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.1</b>	0.30		-		<b>3.1</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>3.0</b>	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>3.6</b>	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	天井(岩綿吸音板)30年, 壁(ビニルクロス)20年, 床(ビニル床材)20年			5.0	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途上位3種のうち2種類以上にB以上を使用, E不使用			5.0	0.20		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20		-		
2.4 信頼性				<b>3.0</b>	0.20		-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20		-		
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20		-		
3 電気設備				3.0	0.20		-		
4 機械・配管支持方法	耐震クラス:A			4.0	0.20		-		
5 通信・情報設備				3.0	0.20		-		

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.6</b>	0.30	-	-	<b>3.6</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>5.0</b>	0.30	-	-	
1 階高のゆとり	階高:3.9m以上		5.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ	2階壁長さ比率:0.1未満		5.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.40	-	-	<b>2.8</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.5</b>	0.30	-	-	<b>2.5</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.2</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	-	-	-	-
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			-	-	-	-	-
<b>2 自然エネルギー利用</b>			-	-	-	-	-
<b>3 設備システムの高効率化</b>	[BEI][BEIm] = -		-	-	-	-	-
<b>4 効率的運用</b>			-	-	-	-	-
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	-
4.1 モニタリング			-	-	-	-	-
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	-
集合住宅の評価			-	-	-	-	-
4.1 モニタリング			-	-	-	-	-
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.50	-	-	<b>3.4</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
1.1 節水	節水コマなどに加えて、省水型機器を採用		4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.4</b>	0.60	-	-	<b>3.4</b>
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	軽量鉄骨の乾式壁工法により、躯体と仕上材を容易に分別可能		5.0	0.22	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.3</b>	0.20	-	-	<b>3.3</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.5</b>	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	ハフロン(ODP=0.01未満、GWP<50)の発泡剤を用いた断熱材を採用		4.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.50	-	-	<b>3.0</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>			-	-	-	-	-
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	<b>3.0</b>
2.1 大気汚染防止	燃焼機器の設置はない		5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>3.2</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	自主的な対策がある		4.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	駐輪場、駐車場の確保等		3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.50	-	-	
2 振動			3.0	0.50	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			-	-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

# CASBEE埼玉県 重点項目シート



■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

## 1 建物概要

建物名称	(仮称)Landport新座新築工事	BEE	1.1	BEEランク	★★★
------	--------------------	-----	-----	--------	-----

## 2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア		
0.0	+	2.6	=	2.6 
重点項目の各スコアの合計点				
がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上	すばらしい 8.0以上	
	 	  	   	

## 3 重点項目についての環境配慮概要

<b>(1) ライフサイクルCO2の削減</b>		スコア平均	0.0
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	0.0
<配慮した内容を記述>特になし			
<b>(2) 緑の保全・創出</b>		スコア平均	2.6
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	3.0
Q3 室外環境(敷地内)	3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2.2 温熱環境悪化の改善	スコア	2.0
<配慮した内容を記述>地上面・屋根面とにもできる限りの緑化を実施。			

:入力欄